

株 主 各 位

新潟県三条市西本成寺二丁目26番57号
株式会社オーシャンシステム
代表取締役社長 樋 口 勝 人

第41回定時株主総会招集ご通知

拝啓 日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第41回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙にて議案に対する賛否をご表示いただき、令和元年6月24日（月曜日）午後5時25分までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 令和元年6月25日（火曜日）午前10時
（午前9時より受付開始。お土産はございません。）
 2. 場 所 新潟県燕市井土巻三丁目65番地
燕三条ワシントンホテル（3階ホール）
（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）
 3. 目的事項
報告事項
 1. 第41期（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第41期（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）計算書類報告の件
- 決議事項
- | | |
|-------|-----------|
| 第1号議案 | 取締役9名選任の件 |
| 第2号議案 | 監査役1名選任の件 |

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類、事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合には、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.ocean-system.com>）に掲載させていただきます。

(添付書類)

## 事業報告

(平成30年4月1日から  
平成31年3月31日まで)

### 1. 企業集団の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境は改善傾向が持続し、底堅い国内需要に支えられ景気は穏やかに回復したものの、中国経済の減速や米国の保護主義姿勢の強まりなど景気の先行きは依然として不安定な状況が続いております。

食品業界におきましても、人件費の負担増と物流コストの上昇は引き続き収益に影響を及ぼし、ネット販売の需要拡大や異業種からの参入による競争の激化など依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはお客様第一を念頭に置き、付加価値のある商品提供に注力しました。また、老朽化した設備を更新し食の安全・安心へ取り組むことで企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は573億55百万円（前期比10.4%増）、営業利益は10億6百万円（前期比10.6%増）、経常利益は10億99百万円（前期比11.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は4億85百万円（前期比3.5%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### (スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、近隣の同業他社の出店やドラッグストアといった異業種からの進出による影響は一部店舗でありましたが、鮮魚等の対面販売や業務用食品を取扱っている当社の特色を活かし販売強化に努めたことと、主力商品の重点販売を行ったことにより売上高は前期を上回りました。しかしながら、社会保険適用拡大を始めとする制度改変の影響から人件費は増加し、セグメント利益は前期に比べ減少しました。

以上の結果、当連結会計年度のセグメント売上高は227億20百万円（前期比0.8%増）、セグメント利益は4億86百万円（前期比11.4%減）となりました。

#### (業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、富山県に1店舗と子会社である(株)カワサキが茨城県に2店舗をオープンし、営業エリアの拡大を図った一方、各店舗の消費動向や商圈を見直した結果2店舗を閉店しました。

また、飲食店へのポスティング活動やメールマガジンでお買得情報を配信したことにより集客力の向上に努めたことと、業務スーパーの商品がテレビ番組で取り上げられた影響で客数が大幅に増加したことなどにより売上高は前期に比べ増加しました。

以上の結果、当連結会計年度のセグメント売上高は214億73百万円（前期比30.7%増）、セグメント利益は5億18百万円（前期比33.9%増）となりました。

#### （弁当給食事業）

弁当給食事業につきましては、千葉工場における惣菜等の受託量及び事業所向け宅配弁当の食数が増加したことと、企業内食堂の運営受託部門において契約施設数が増えたことにより売上高は前期に比べ増加しました。

しかしながら、11月に「フレッシュランチ39新潟店」を新潟市江南区へ移転したことにより初期経費や減価償却費及びリース料といった固定費が発生したこと、ならびに、売上の伸長に伴う人員の増加と製造部門の時給者単価の上昇により人件費が増加し、セグメント利益は前期に比べ減少しました。

以上の結果、当連結会計年度のセグメント売上高は78億50百万円（前期比3.8%増）、セグメント利益は3億13百万円（前期比11.7%減）となりました。

#### （食材宅配事業）

食材宅配事業につきましては、ケアハウスや福祉施設などへの食材販売を行う「ヨシケイキッチン」の契約施設数が増加し、同部門の売上高は増加しました。しかしながら、主力商品である一般家庭向け「すまいるごはん」については新規顧客獲得のためのキャンペーンを行ったものの、配達員の不足により販売コース数が減少したことなどが影響し、販売数は前期に及びませんでした。

利益面につきましては、青果類の相場が比較的安定して推移したことなどにより前期を上回りました。

以上の結果、当連結会計年度のセグメント売上高は45億23百万円（前期比1.5%減）、セグメント利益は2億64百万円（前期比24.8%増）となりました。

#### （旅館、その他事業）

旅館「海風亭 寺泊 日本海」につきましては、新聞等の宣伝効果によりレストランの利用客及び一般の宿泊者数は増加し、また県内及び近隣県への営業活動により旅行代理店からの送客も前期に比べ増加しました。

定食屋「米どころん」につきましては、看板メニューの開発や店舗ごとに居酒屋スタイルやサラダなどのビュッフェスタイルを取り入れるなど特色を打ち出したものの客数は前年に及ばず、利益化が困難と判断した2店舗を3月末で閉店しました。

以上の結果、当連結会計年度のセグメント売上高は7億87百万円（前期比5.9%減）、セグメント損失は1億20百万円（前期はセグメント損失1億38百万円）となりました。

#### 事業セグメント別売上高

| 区 分             | 売 上 高      | 前連結会計年度比 |
|-----------------|------------|----------|
| スーパーマーケット事業     | 22,720 百万円 | 100.8 %  |
| 業 務 ス ー パ ー 事 業 | 21,473 百万円 | 130.7 %  |
| 弁 当 給 食 事 業     | 7,850 百万円  | 103.8 %  |
| 食 材 宅 配 事 業     | 4,523 百万円  | 98.5 %   |
| 旅 館 、 そ の 他 事 業 | 787 百万円    | 94.1 %   |
| 合 計             | 57,355 百万円 | 110.4 %  |

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

#### (2) 設備投資の状況

当連結会計年度中の設備投資の総額は22億85百万円であり、その主なものは次のとおりであります。

| セグメント名      | 設備の内容     | 事業所名              |
|-------------|-----------|-------------------|
| スーパーマーケット事業 | 店舗の移転     | 当社、チャレンジャー小千谷店    |
| 業務スーパー事業    | 店舗の移転     | 当社、業務スーパー塩釜店      |
|             | 店舗の新設     | (株)カワサキ、業務スーパー守谷店 |
|             | 店舗の新設     | (株)カワサキ、業務スーパー神栖店 |
| 弁当給食事業      | 工場の移転     | 当社、フレッシュランチ39新潟店  |
|             | 土地の取得     | 当社、フレッシュランチ39札幌店  |
| 食材宅配事業      | 営業所の移転・統合 | 当社、ヨシケイ長岡営業所      |
|             | 営業所の移転・統合 | 当社、ヨシケイ新潟営業所      |
| 全社          | 本部の新設     | 当社、新潟本部           |

(注) チャレンジャー小千谷店の移転オープン日は平成31年4月17日です。

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度中に、当社グループの所要資金として、金融機関より長期借入金として15億円の資金調達を行いました。

その他の増資、社債発行等による資金調達は行っておりません。

(4) 事業の譲渡、合併等企業再編行為状況

該当事項はありません。

(5) 対処すべき課題

当社グループを取り巻く食品業界の経営環境は、人件費の負担増と物流コストの上昇が引き続き収益に影響を及ぼし、ネット販売の需要拡大や異業種からの参入による競争の激化など依然として厳しい状況が続いております。

こうした状況の下、当社グループは、以下の課題を重点として取り組んでまいります。

① 安全、安心な食品とサービスの提供

当社グループの経営理念としても掲げており、最重要課題として認識しております。関連法令の遵守はもとより、自主検査の実施、QA（品質保証）担当者による定期巡回、品質管理部門の組織充実と機能強化を行い、一層の品質管理、食品衛生管理の強化に取り組んでまいります。

② 事業基盤の強化

スーパーマーケット事業につきましては、引き続き低価格戦略を推進するとともに売場環境及び商品構成の見直しを行い、より魅力ある店づくりに取り組んでまいります。

業務スーパー事業につきましては、直営店ならびにサブFC店による出店など、戦略的な営業展開を進めてまいります。

③ 人材の確保と育成

厳格な管理体制及び積極的な営業活動を行うために優秀な人材の確保が急務となっております。当社グループといたしましては、中途採用ならびに新卒採用の両面に注力し、育成とフォローアップ体制の整備を充実させることにより人材のスキルアップと組織の活性化を図ってまいります。

④ コーポレートガバナンス

持続的成長をかなえるための企業体質の確立に向けて、透明で公正な経営体制の構築と迅速な意思決定への取り組みを通じて、業容の拡大に応じたコーポレートガバナンスの更なる充実に努めてまいります。

このように、当社グループは、商品力を高め、安定した収益力の確保と企業競争力及び財務体質の強化を図り、お客様からの支持を得られる企業となるように取り組んでいく所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(6) 財産及び損益の状況の推移

① 企業集団の財産及び損益の状況の推移

| 区 分                  | 第38期<br>平成28年3月期 | 第39期<br>平成29年3月期 | 第40期<br>平成30年3月期 | 第41期<br>(当連結会計年度)<br>平成31年3月期 |
|----------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------------------|
| 売上高(百万円)             | 48,475           | 49,952           | 51,967           | 57,355                        |
| 経常利益(百万円)            | 1,047            | 992              | 988              | 1,099                         |
| 親会社株主に帰属する当期純利益(百万円) | 537              | 487              | 503              | 485                           |
| 1株当たり当期純利益(円)        | 54.58            | 49.50            | 51.14            | 49.35                         |
| 総資産(百万円)             | 14,518           | 14,444           | 16,772           | 17,955                        |
| 純資産(百万円)             | 5,711            | 6,176            | 6,543            | 6,837                         |

② 当社の財産及び損益の状況の推移

| 区 分           | 第38期<br>平成28年3月期 | 第39期<br>平成29年3月期 | 第40期<br>平成30年3月期 | 第41期<br>(当事業年度)<br>平成31年3月期 |
|---------------|------------------|------------------|------------------|-----------------------------|
| 売上高(百万円)      | 47,926           | 49,383           | 50,511           | 52,488                      |
| 経常利益(百万円)     | 998              | 951              | 987              | 959                         |
| 当期純利益(百万円)    | 505              | 457              | 535              | 418                         |
| 1株当たり当期純利益(円) | 51.38            | 46.48            | 54.42            | 42.46                       |
| 総資産(百万円)      | 13,928           | 13,701           | 15,863           | 17,135                      |
| 純資産(百万円)      | 5,211            | 5,637            | 6,044            | 6,307                       |

(7) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

| 会社名             | 資本金   | 当社の議決権比率 | 主要な事業内容                           |
|-----------------|-------|----------|-----------------------------------|
| (株)サンキューオールジャパン | 20百万円 | 100%     | 「フレッシュランチ39」のFC展開                 |
| (株)フーディー        | 10百万円 | 100%     | 「フレッシュランチ39」等ブランドによる企業宅配弁当の製造及び販売 |
| (株)カワサキ         | 30百万円 | 100%     | 「業務スーパー」の店舗展開                     |

(8) 主要な事業内容（平成31年3月31日現在）

| 事業セグメント     | 事業内容                                     |
|-------------|------------------------------------------|
| スーパーマーケット事業 | 食品スーパー「チャレンジャー」による店舗展開                   |
| 業務スーパー事業    | 「業務スーパー」の店舗展開及びフランチャイズエリア内におけるサブFCの指導・管理 |
| 弁当給食事業      | 「フレッシュランチ39」等ブランドによる企業宅配弁当の製造及び販売        |
|             | 「こしひかり弁当」ブランドによる弁当の製造及び店頭販売ならびに卸売販売      |
|             | 惣菜等の受託製造                                 |
|             | オフィス・工場など企業内食堂の運営受託                      |
|             | 「フレッシュランチ39」のFC展開                        |
| 食材宅配事業      | 「ヨシケイ」ブランドによる夕食材料セット等の宅配                 |
| 旅館、その他事業    | 定食屋「米どころん」の運営及びFC展開                      |
|             | 旅館及び上記以外の飲食店                             |

## (9) 主要な営業所及び工場（平成31年3月31日現在）

## ① 当社の主要な営業所及び工場

|                |                                                                                              |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本 社            | 新潟県三条市                                                                                       |
| 新 潟 本 部        | 新潟市江南区                                                                                       |
| スーパーマーケット事業・店舗 | 新潟県（10店舗）                                                                                    |
| 業務スーパー事業・店舗    | 新潟県（7店舗）・秋田県（4店舗）<br>宮城県（8店舗）・山形県（9店舗）<br>福島県（3店舗）・長野県（1店舗）<br>群馬県（7店舗）・茨城県（2店舗）<br>富山県（4店舗） |
| 弁当給食事業・工場      | 新潟県（4工場）・北海道（1工場）<br>群馬県（1工場）・茨城県（1工場）<br>千葉県（1工場）                                           |
| 弁当給食事業・営業所     | 新潟県（3営業所）・群馬県（2営業所）<br>埼玉県（3営業所）                                                             |
| 弁当給食事業・販売所     | 東京都（2店舗）                                                                                     |
| 食材宅配事業・営業所     | 新潟県（11営業所）・北海道（3営業所）<br>群馬県（3営業所）                                                            |
| 旅館、その他事業・店舗    | 新潟県（3店舗）・東京都（2店舗）                                                                            |

## ② 子会社

|                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| (株)サンキューオールジャパン | 本社：新潟市東区                  |
| (株)フーディー        | 本社：山形県米沢市                 |
| (株)カワサキ         | 本社：茨城県水戸市<br>店舗：茨城県（11店舗） |

(10) 使用人の状況（平成31年3月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

| 事業部門        | 使用人数 | 前連結会計年度末比増減 |
|-------------|------|-------------|
| スーパーマーケット事業 | 184名 | 1名増         |
| 業務スーパー事業    | 129名 | 12名増        |
| 弁当給食事業      | 245名 | 8名増         |
| 食材宅配事業      | 239名 | 5名減         |
| 旅館、その他事業    | 29名  | 3名減         |
| 全社（共通）      | 43名  | 7名増         |
| 合計          | 869名 | 20名増        |

(注) 1. 使用人数には、嘱託・契約社員・パート・アルバイトは含まれておりません。

2. 全社（共通）として記載されている使用人数は、特定の事業部門に区分できない管理部門に所属しているものであります。

② 当社の使用人の状況

| 使用人数 | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-----------|-------|--------|
| 816名 | 16名増      | 40.5歳 | 9.0年   |

(注) 1. 使用人数には、嘱託・契約社員・パート・アルバイトは含まれておりません。

2. 使用人数は、当社から社外への出向者を除いた人数であります。

(11) 主要な借入先（平成31年3月31日現在）

| 借入先        | 借入額     |
|------------|---------|
| (株)北越銀行    | 833 百万円 |
| (株)三井住友銀行  | 700     |
| (株)三菱UFJ銀行 | 620     |

(12) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の株式に関する事項(平成31年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 35,740,000株
- (2) 発行済株式の総数 10,833,000株 (自己株式989,121株を含む)
- (3) 株主数 12,310名
- (4) 大株主(上位10名)

| 株 主 名           | 持 株 数       | 持 株 比 率 |
|-----------------|-------------|---------|
| (株)ひぐち          | 2,711,000 株 | 27.54 % |
| 樋口洋平            | 761,000     | 7.73    |
| 樋口 勤            | 723,000     | 7.34    |
| (株)第四銀行         | 320,000     | 3.25    |
| (株)北越銀行         | 301,000     | 3.06    |
| オーシャンシステム従業員持株会 | 192,700     | 1.96    |
| 樋口智明            | 74,700      | 0.76    |
| 鈴木美花            | 58,200      | 0.59    |
| (株)H K Y        | 51,900      | 0.53    |
| 新潟酒販(株)         | 50,000      | 0.51    |

- (注) 1. 当社は自己株式を989,121株保有しておりますが、上記大株主から除外しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 3. 会社の新株予約権等に関する事項

- (1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権等の状況(平成31年3月31日現在)  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として当社使用人等に交付した新株予約権等の状況  
該当事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役及び監査役の状況（平成31年3月31日現在）

| 会社における地位 | 氏名    | 担当及び重要な兼職の状況                                                                               |
|----------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長  | 樋口 勝人 |                                                                                            |
| 取締役会長    | 樋口 勤  | (株)サンキューオールジャパン代表取締役社長                                                                     |
| 専務取締役    | 中嶋 庄司 | 執行役員宅配事業部長<br>(株)フーディー取締役                                                                  |
| 常務取締役    | 宮嶋 大造 |                                                                                            |
| 取締役      | 小野 純平 | 執行役員業務スーパー事業部長<br>(株)カワサキ代表取締役社長                                                           |
| 取締役      | 杉田 仁史 | (株)サンキューオールジャパン取締役                                                                         |
| 取締役      | 山田 秀樹 | 執行役員社長室長<br>(株)カワサキ取締役                                                                     |
| 取締役      | 齋藤 吉弘 | あおば社労士事務所所長<br>(株)キッチンプランニング監査役<br>(株)あおば中央人事労務代表取締役<br>医療社団法人成美会監事<br>合同会社あおばインベストメント代表社員 |
| 取締役相談役   | 樋口 洋平 |                                                                                            |
| 常勤監査役    | 武石 肇  |                                                                                            |
| 監査役      | 捧 俊雄  | 捧公認会計士事務所代表<br>(株)あさひ会社代表取締役                                                               |
| 監査役      | 逸見 和宏 | 逸見和宏公認会計士事務所代表<br>国立大学法人新潟大学非常勤監事<br>税理士法人逸見会計代表社員                                         |

- (注) 1. 取締役齋藤吉弘氏は、社外取締役であります。
2. 取締役齋藤吉弘氏は、社会保険労務士の資格を有しており、社会保険及び労務に関する相当程度の知見を有しております。
3. 監査役捧俊雄氏及び逸見和宏氏は、社外監査役であります。
4. 監査役捧俊雄氏及び逸見和宏氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
5. 当社は取締役齋藤吉弘氏ならびに監査役捧俊雄氏及び逸見和宏氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
6. 当社と社外取締役及び各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。  
当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。
7. 平成31年3月12日付の取締役会決議により、平成31年4月1日付で取締役の地位・担当を次のとおり変更しております。
- ・小野純平氏は取締役兼執行役員業務スーパー事業部長から取締役兼執行役員業務スーパー事業部長兼企画開発室長に就任いたしました。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の額

① 当事業年度に係る報酬等の総額

| 区 分                | 支給人員          | 支給額                    |
|--------------------|---------------|------------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 10名<br>( 1 名) | 125,110千円<br>(1,300千円) |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 4 名<br>( 2 名) | 10,470千円<br>(2,600千円)  |
| 合 計<br>(うち社外役員)    | 14名<br>( 3 名) | 135,580千円<br>(3,900千円) |

- (注) 1. 上記には、平成30年6月26日に開催の第40回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでおります。
2. 取締役の報酬限度額は、平成18年6月16日開催の第28回定時株主総会において、年額360,000千円以内と決議いただいております。
3. 監査役の報酬限度額は、平成18年6月16日開催の第28回定時株主総会において、年額60,000千円以内と決議いただいております。
4. 上記の支給額には、以下のものが含まれております。  
・当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額14,500千円(取締役6名に対し13,600千円(うち社外取締役1名に対し100千円)、監査役4名に対し900千円(うち社外監査役2名に対し200千円))
5. 平成30年6月26日開催の第40回定時株主総会終結の時をもって、山田秀樹氏が監査役を辞任し、同総会において取締役に選任され就任しております。同氏の報酬は、監査役在任期間分は監査役に、取締役在任期間分は取締役に含めて記載しております。

② 当事業年度に支払った役員退職慰労金

平成30年6月26日開催の第40回定時株主総会決議に基づき、平成30年6月26日付をもって退任した取締役に對して支払った役員退職慰労金は以下のとおりであります。

- ・平成30年6月26日付退任取締役1名に対し、15,000千円

(上記金額には、過年度の事業報告において、役員の報酬等の総額に含まれた役員退職慰労金引当金の繰入額、取締役分14,600千円が含まれております。)

(3) 社外役員に関する事項（平成31年3月31日現在）

① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

| 地 位 | 氏 名  | 兼職する法人等         | 兼職の内容 |
|-----|------|-----------------|-------|
| 取締役 | 齋藤吉弘 | あおば社労士事務所       | 所長    |
|     |      | (株)キッチンプランニング   | 監査役   |
|     |      | (株)あおば中央人事労務    | 代表取締役 |
|     |      | 医療社団法人成美会       | 監事    |
|     |      | 合同会社あおばインベストメント | 代表社員  |
| 監査役 | 捧俊雄  | 捧公認会計士事務所       | 代表    |
|     |      | (株)あさひ会計社       | 代表取締役 |
| 監査役 | 逸見和宏 | 逸見和宏公認会計士事務所    | 代表    |
|     |      | 国立大学法人新潟大学      | 非常勤監事 |
|     |      | 税理士法人逸見会計       | 代表社員  |

- (注) 1. 当社とあおば社労士事務所、(株)キッチンプランニング、(株)あおば中央人事労務、医療社団法人成美会及び合同会社あおばインベストメントとの間に特別な関係はありません。  
 2. 当社と捧公認会計士事務所及び(株)あさひ会計社との間に特別な関係はありません。  
 3. 当社と逸見和宏公認会計士事務所、国立大学法人新潟大学及び税理士法人逸見会計との間に特別な関係はありません。

② 当社または当社の特定関係事業者の業務執行者または役員との親族関係  
 該当事項はありません。

③ 当事業年度における主な活動状況

| 地 位 | 氏 名  | 主な活動状況                                                                                                                              |
|-----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役 | 齋藤吉弘 | 当事業年度に開催された取締役会17回のうち13回に出席いたしました。主に社会保険労務士としての専門的見地から、取締役会において、当社の経営上有用な指摘、意見を述べております。                                             |
| 監査役 | 捧俊雄  | 当事業年度に開催された取締役会17回のうち17回に出席し、監査役会13回のうち11回に出席いたしました。主に公認会計士としての専門的見地から、取締役会において、当社の経営上有用な指摘、意見を述べ、監査役会において自らの職務の執行について随時報告を行っております。 |
| 監査役 | 逸見和宏 | 当事業年度に開催された取締役会17回のうち17回に出席し、監査役会13回のうち12回に出席いたしました。主に公認会計士としての専門的見地から、取締役会において、当社の経営上有用な指摘、意見を述べ、監査役会において自らの職務の執行について随時報告を行っております。 |

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 名称

EY新日本有限責任監査法人

(注) 当社の会計監査人であった新日本有限責任監査法人は、平成30年7月1日をもって、EY新日本有限責任監査法人に名称を変更しております。

### (2) 報酬等の額

|                               | 報酬等の額    |
|-------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額           | 33,500千円 |
| 当社及び子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 33,500千円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

### (3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

## 6. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

### (1) 業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

#### ① 取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は代表取締役社長が法令の遵守と透明度の高い経営を目指すことを内容とする「社訓・経営理念」について、取締役及び使用人に繰り返しその精神を伝えることによりコンプライアンスを徹底する。

代表取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を組成し、全社的なコンプライアンスの取り組みを横断的に統括し、取締役及び使用人に対し「コンプライアンスマニュアル」に基づいた教育ならびに管理を実施する。これらの活動は定期的に取り締り会及び監査役会に報告する。

内部監査室を設置し、当該組織は会社の業務実施状況を把握のうえ、すべての業務が法令、定款、社内規程等に準拠し適正・妥当かつ合理的に行われているか、また会社の制度、組織、諸規程等が適正・妥当であるかを調査・検証するとともに、代表取締役社長にその結果を定期的及び必要に応じて報告する。

法令、規定に反した行為等について取締役及び使用人が直接情報提供を行うホットラインを設置運営するとともに、情報提供に対しては「コンプライアンス委員会規程」に沿った対応をとるものとする。

社会の秩序や当社グループ及びその取締役・使用人に脅威を与える反社会的勢力に対しては、「反社会的勢力に対する対応マニュアル」に基づき、毅然とした姿勢で組織的に対応する。

② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、「文書取扱規程」等に基づき文書等に記録し、保存及び管理する。取締役及び監査役は、同規程等により、これらの文書等を必要に応じて閲覧できるものとする。

③ 損失の危険に対する管理に関する規程その他の体制

当社は、「リスク管理規程」により、リスクの予防及びリスクの発生に備えた事前準備や処理体制の確立を行う。

なお、大規模な事故、災害、不祥事等が発生した場合には、代表取締役社長を委員長とする対策本部を設置し危機対応の体制をとり、迅速に行動し、損害及びその拡大を防止する。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会を月1回定期的に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催し、迅速かつ適切な意思決定を図り、重要な業務執行課題については、事前に取締役及び事業部長等で構成する経営会議で十分な審議を行ったうえで取締役会に付議するものとする。

⑤ 当社及び子会社から成る企業集団における業務執行の適正性、損失の危険に対する管理、業務執行の効率性、業務執行の法令及び定款に対する適合性の監査体制

「関係会社管理規程」に基づき、適正な業務執行かつ効率的で円滑な業務運営を遂行し企業集団全体の安定成長を図るため、当社を中心とした企業集団全体の業務執行に関する管理体制を明確にする。

「関係会社管理規程」及び「内部監査規程」に基づき、当社の内部監査室による関係会社の内部監査を実施し、子会社から独立した立場で業務執行の適正性、損失の危険に対する管理、業務執行の効率性、業務執行の法令及び定款に対する適合性について監査を行うことにより業務の適正を確保する。

- ⑥ 監査役がその職務を補助する使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する実効性の確保に関する事項

監査役がその職務の執行に関して補助する使用人を置くことを求めた場合、取締役会は監査役と協議の上、使用人を置くものとする。監査役の補助をする期間中は、当該使用人への指揮権は監査役に委譲されるものとし、人事異動及び人事評価に関しては、監査役会の同意を得なければならない。

- ⑦ 当社及び子会社取締役及び会計参与ならびに使用人、監査役、執行役、会社法第598条第1項の職務を行うべき者その他これらの者に相当する者またはこれらの者から報告を受けた者が監査役に報告をするための体制

取締役及び使用人等は、当社及び子会社に対して損失の危機がある事項及び不正行為や法令・定款に対する違反行為を認識した場合、また取締役会に付議すべき重要な事項が生じた場合には、監査役に対して速やかに報告しなければならない。また監査役から報告の求めがあった場合には、取締役及び使用人等は、その報告を行う義務を負う。報告を行った者は、報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けない。

監査役は、取締役会、経営会議、その他重要と認められる会議等に出席し、業務執行過程における意思決定プロセスや業務の執行状況を把握するとともに、稟議書類等業務執行に係る文書を閲覧し、取締役及び使用人等に対して説明を求めることができる。

監査役の職務執行により生じる費用の前払または償還の手続、その他の職務の執行により生じる費用または債務の負担については、会社に請求することができる。

- ⑧ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役は、「監査役会規程」に基づき、監査役会と定期的に会合を開催し、会社が対応すべき課題、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見交換し、監査役監査の実効性を高める。

監査役は、「監査役監査規程」に基づき、会計監査人及び内部監査室と連携し、十分な調整の上で、年度計画、個別計画等の監査計画を策定し、監査役監査の実効性を確保する。

- (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

- ① 原則として月1回の取締役会を開催するほか、事前に取締役及び事業部長等で構成する経営会議で十分な審議、業務執行の状況等の監督を行い、意思決定及び監督の実効性は確保されております。

- ② 社外監査役を含む監査役は、監査役会において定めた監査計画に基づき監査を実施するとともに、取締役会への出席及び代表取締役、会計監査人ならびに内部監査部門との間で定期的な情報交換等を行うことで、取締役の職務執行の監査、内部統制の整備ならびに運用状況を確認しております。
- ③ 内部監査部門は、内部統制に関する基本計画に基づき当社グループ全体の財務報告の信頼性と適正性を確保するため内部統制評価を実施し、経営会議及び取締役会に報告しております。

## 7. 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主に対する利益還元の実現を経営上の重要課題の1つとして認識しております。配当原資確保のために財務体質の強化や収益力をアップして、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としております。また、剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。

なお、当社は会社法第459条第1項各号の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる旨を定めており、中間配当及び期末配当の決定機関はいずれも取締役会であります。

当期の期末配当金につきましては1株につき6円とさせていただきます。すでに、平成30年12月3日に実施済みの中間配当金1株当たり6円とあわせて、年間配当金は1株当たり12円となります。

また、内部留保資金につきましては、今後の事業展開への備えと成長性、収益性の高い分野への設備投資などに投入していくこととしております。

また、自己株式の処分・活用につきましては、当社グループ成長発展のためのより良い資本政策を検討し、時宜にかなった決定をしております。

~~~~~  
(注) 本事業報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	5,868,130	流動負債	6,134,460
現金及び預金	2,508,330	買掛金	2,985,232
売掛金	1,306,982	短期借入金	911,528
商品	1,460,253	リース債務	117,327
原材料	87,309	未払金	709,825
貯蔵品	17,321	未払費用	631,490
その他	490,128	未払法人税等	243,702
貸倒引当金	△2,195	未払消費税等	68,675
固定資産	12,086,891	賞与引当金	213,961
有形固定資産	9,263,760	役員賞与引当金	300
建物及び構築物	5,040,546	資産除去債務	75,875
機械装置及び運搬具	158,929	その他	176,542
工具、器具及び備品	255,853	固定負債	4,982,612
土地	3,412,886	社債	600,000
リース資産	394,533	長期借入金	2,899,772
建設仮勘定	1,010	リース債務	307,480
無形固定資産	517,940	退職給付に係る負債	16,224
のれん	252,312	役員退職慰労引当金	130,060
借地権	160,100	資産除去債務	621,035
その他	105,527	長期預り保証金	384,672
		その他	23,367
		負債合計	11,117,073
投資その他の資産	2,305,191	純資産の部	
投資有価証券	434,384	株主資本	6,798,402
退職給付に係る資産	74,115	資本金	801,710
繰延税金資産	512,044	資本剰余金	366,781
敷金	532,774	利益剰余金	6,381,564
差入保証金	732,834	自己株式	△751,653
その他	31,050	その他の包括利益累計額	39,547
貸倒引当金	△12,012	その他有価証券評価差額金	69,908
		退職給付に係る調整累計額	△30,361
資産合計	17,955,022	純資産合計	6,837,949
		負債純資産合計	17,955,022

連結損益計算書

(平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		57,355,790
売 上 原 価		43,255,403
売 上 総 利 益		14,100,386
販売費及び一般管理費		13,093,808
営 業 利 益		1,006,578
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	37	
受 取 配 当 金	10,312	
受 取 家 賃	24,909	
そ の 他	91,192	126,452
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	19,886	
そ の 他	13,836	33,723
経 常 利 益		1,099,308
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	200	
助 成 金 収 入	78,947	
受 取 保 険 金	17,085	96,232
特 別 損 失		
固 定 資 産 売 却 損	56,319	
店 舗 閉 鎖 損 失	21,037	
減 損 損 失	255,704	
そ の 他	26,884	359,945
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		835,595
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	348,218	
法 人 税 等 調 整 額	1,565	349,784
当 期 純 利 益		485,811
非支配株主に帰属する当期純利益		-
親会社株主に帰属する当期純利益		485,811

連結株主資本等変動計算書

（平成30年 4月 1日から
平成31年 3月31日まで）

（単位：千円）

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	801,710	366,781	6,013,879	△751,653	6,430,718
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当	-	-	△118,126	-	△118,126
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	-	-	485,811	-	485,811
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当 期 変 動 額 合 計	-	-	367,684	-	367,684
当 期 末 残 高	801,710	366,781	6,381,564	△751,653	6,798,402

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当 期 首 残 高	106,581	6,149	112,731	6,543,449
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当	-	-	-	△118,126
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	-	-	-	485,811
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△36,673	△36,510	△73,184	△73,184
当 期 変 動 額 合 計	△36,673	△36,510	△73,184	294,500
当 期 末 残 高	69,908	△30,361	39,547	6,837,949

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数	3社
連結子会社の名称	(株)サンキューオールジャパン (株)フーディー (株)カワサキ

(2) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの	決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
---------	--

時価のないもの	移動平均法による原価法
---------	-------------

ロ. たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品及び原材料

スーパーマーケット	売価還元法による原価法
事業・業務スーパー	（ただし、生鮮食品は最終仕入原価法、物流センター等の在庫品は移動平均法による原価法）
事業	最終仕入原価法
弁当給食事業	最終仕入原価法 （ただし、物流センター等の在庫品は移動平均法による原価法）

食材宅配事業・旅館、最終仕入原価法

その他事業

貯蔵品 最終仕入原価法

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- イ. 有形固定資産 定率法
(リース資産を除く) ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。また、事業用定期借地契約による借地上の建物及び構築物については、残存価額を零とした借地契約期間を耐用年数とする定額法によっております。
なお、主な耐用年数は次のとおりであります。
建物 2～50年
- ロ. 無形固定資産 定額法
(リース資産を除く) なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
- ハ. リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とする定額法によっております。

③ 重要な引当金の計上基準

- イ. 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度対応額を計上しております。
- ハ. 役員賞与引当金 役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度対応額を計上しております。
- ニ. 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

④ その他連結計算書類の作成のための重要な事項

イ. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

ロ. 消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

ハ. のれん及び負ののれんの償却に関する事項

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

ニ. 退職給付に係る負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上しております。

なお、当連結会計年度末における年金資産見込額が退職給付債務見込額を上回るため、74,115千円を投資その他の資産の退職給付に係る資産に計上しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保付債務

担保に供している資産	
定期預金	10,119千円
建物	148,787千円
土地	449,494千円
計	608,402千円
上記に対する債務	
短期借入金	137,200千円
長期借入金	1,166,000千円
計	1,303,200千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 7,546,213千円

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式に関する事項

当連結会計年度の末日における発行済株式の種類及び総数
普通株式 10,833,000株

(2) 自己株式に関する事項

当連結会計年度の末日における自己株式の種類及び株式数
普通株式 989,121株

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年5月14日 取締役会	普通株式	59,063	6.0	平成30年3月31日	平成30年6月27日
平成30年11月13日 取締役会	普通株式	59,063	6.0	平成30年9月30日	平成30年12月3日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
令和元年5月14日 取締役会	普通株式	利益剰余金	59,063	6.0	平成31年3月31日	令和元年6月26日

- (4) 新株予約権に関する事項
該当事項はありません。

5. 金融商品に関する注記

- (1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入及び社債発行により資金を調達しております。

売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金及び社債の用途は主として設備投資資金であり、借入金の金利変動リスクに対して、主に固定金利を選択することにより支払利息の固定化を実施しております。

- (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成31年3月31日(当連結会計年度の連結決算日)における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額 (*)	時価 (*)	差額
① 現金及び預金	2,508,330	2,058,330	—
② 売掛金	1,306,982	1,306,982	—
③ 投資有価証券	419,250	419,250	—
④ 差入保証金	595,489	586,885	△8,604
⑤ 買掛金	(2,985,232)	(2,985,232)	—
⑥ 社債	(600,000)	(599,999)	△0
⑦ 長期借入金(1年内返済 予定のものを含む)	(3,811,300)	(3,802,675)	△8,624

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

- (注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

- ① 現金及び預金、ならびに② 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- ③ 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

- ④ 差入保証金
差入保証金の時価については、その種別ごとに分類し、償還予定期間に応じて将来キャッシュ・フローを国債の利回り等の利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- ⑤ 買掛金
買掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- ⑥ 社債
社債の時価については、新規発行を行った際の利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- ⑦ 長期借入金（1年内返済予定のものを含む）
長期借入金のうち、固定金利によるものの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (注2) 非上場株式（連結貸借対照表計上額15,134千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「③ 投資有価証券」には含めておりません。
- (注3) 差入保証金のうち、連結貸借対照表計上額137,345千円は、償還期間及び将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「④ 差入保証金」には含めておりません。

6. 1 株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額	694円64銭
1株当たりの当期純利益	49円35銭

7. 減損損失に関する注記

場所	用途	種類
スーパーマーケット事業 新潟県長岡市	店舗	建物及びリース契約物件他
弁当給食事業 茨城県つくば市	工場	建物及び機械装置他
千葉県稲毛区	工場	リース資産及びリース契約物件他
旅館、その他事業 新潟県長岡市	店舗	建物及び機械装置他
新潟市中央区	店舗	リース契約物件

当社グループは、原則として、各事業毎の支店及び店舗等を基本単位としてグルーピングを行っておりますが、賃貸用不動産及び遊休資産については物件単位によってグルーピングを行っております。当連結会計年度において、収益性が著しく低下した資産グループについて、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（255,704千円）として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物及び構築物156,925千円、機械装置及び運搬具27,859千円、土地23,555千円、リース資産19,683千円及びその他27,681千円であります。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額又は使用価値により測定しております。正味売却価額については主に不動産鑑定評価基準に基づいた不動産鑑定士からの評価額を基準に評価し、使用価値については将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、回収可能価格をゼロとして算定しております。

8 資産除去債務に関する注記

資産除去債務のうち、連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

店舗等における賃貸借契約終了後の原状回復に伴う費用であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から主に20～34年と見積もり、割引率は0.1～2.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減	
期首残高	640,078千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	64,240千円
時の経過による調整額	10,729千円
資産除去債務の履行による減少額	△18,137千円
期末残高	696,911千円

9. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	5,028,080	流動負債	5,977,027
現金及び預金	1,864,091	買掛金	2,953,844
売掛金	1,321,982	1年内返済予定の長期借入金	911,528
商材	1,267,207	リース債務	87,106
原材料	85,764	資産除去債務	75,875
貯蔵品	17,125	未払金	692,061
前払費用	160,871	未払費用	604,114
未収入金	133,573	未払法人税等	227,897
預け金	172,652	未払消費税等	52,060
その他金	6,810	前受金	31,888
貸倒引当金	△2,000	預り金	95,724
固定資産	12,107,858	賞与引当金	203,680
有形固定資産	8,611,028	リース資産減損勘定	16,457
建物	4,357,589	その他	24,788
構築物	314,230	固定負債	4,851,187
機械及び装置	155,219	社債	600,000
工具、器具及び備品	251,875	長期借入金	2,899,772
土地	3,256,914	関係会社長期借入金	100,000
リース資産	274,188	リース債務	217,141
建設仮勘定	1,010	役員退職慰労引当金	94,700
無形固定資産	245,820	資産除去債務	575,682
借地権	160,100	長期預り保証金	346,695
ソフトウェア	68,945	リース資産減損勘定	17,195
電話加入権	16,324	負債合計	10,828,215
無形固定資産仮勘定	229	純資産の部	
その他	220	株主資本	6,237,816
投資その他の資産	3,251,009	資本金	801,710
投資有価証券	434,384	資本剰余金	366,781
関係会社株式	996,015	資本準備金	354,553
出資金	4,769	その他資本剰余金	12,228
破産更生債権等	10,615	利益剰余金	5,820,977
長期前払費用	10,477	利益準備金	98,952
繰延税金資産	469,999	その他利益剰余金	5,722,024
前払年金費用	117,807	固定資産圧縮積立金	83,358
敷金	503,150	別途積立金	2,903,000
差入保証金	714,405	繰越利益剰余金	2,735,666
貸倒引当金	△10,615	自己株式	△751,653
資産合計	17,135,939	評価・換算差額等	69,908
		その他有価証券評価差額金	69,908
		純資産合計	6,307,724
		負債純資産合計	17,135,939

損 益 計 算 書

(平成30年 4月 1日から
平成31年 3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		52,488,421
売 上 原 価		39,422,608
売 上 総 利 益		13,065,812
販売費及び一般管理費		12,220,001
営 業 利 益		845,811
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	40	
受 取 配 当 金	22,767	
受 取 家 賃	24,492	
業 務 受 託 手 数 料	14,581	
雑 収 入	84,951	146,833
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	18,022	
社 債 利 息	2,100	
雑 損 失	13,403	33,526
経 常 利 益		959,118
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	200	
助 成 金 収 入	78,947	
受 取 保 険 金	16,541	95,688
特 別 損 失		
固 定 資 産 売 却 損	56,319	
固 定 資 産 除 却 損	8,515	
賃 貸 借 契 約 解 約 損	3,770	
店 舗 閉 鎖 損 失	21,037	
減 損 損 失	255,704	
そ の 他	13,795	359,141
税 引 前 当 期 純 利 益		695,665
法人税、住民税及び事業税	304,228	
法 人 税 等 調 整 額	△26,574	277,654
当 期 純 利 益		418,010

株主資本等変動計算書

(平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金	
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	
当 期 首 残 高	801,710	354,553	12,228	366,781	98,952	4,666	2,903,000
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当	-	-	-	-	-	-	-
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 積 立	-	-	-	-	-	78,947	-
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩	-	-	-	-	-	△254	-
当 期 純 利 益	-	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-
当 期 変 動 額 合 計	-	-	-	-	-	78,692	-
当 期 末 残 高	801,710	354,553	12,228	366,781	98,952	83,358	2,903,000

	株 主 資 本				評価・換算 差額等	純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計			その他 有価証券 評価差額金	
当 期 首 残 高	2,514,474	5,521,094	△751,653	5,937,932	106,581	6,044,514
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当	△118,126	△118,126	-	△118,126	-	△118,126
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 積 立	△78,947	-	-	-	-	-
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩	254	-	-	-	-	-
当 期 純 利 益	418,010	418,010	-	418,010	-	418,010
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	△36,673	△36,673
当 期 変 動 額 合 計	221,191	299,883	-	299,883	△36,673	263,209
当 期 末 残 高	2,735,666	5,820,977	△751,653	6,237,816	69,908	6,307,724

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

子会社株式 移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの 移動平均法による原価法

② たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品及び原材料

スーパーマーケット 売価還元法による原価法

事業・業務スーパー 事業（ただし、生鮮食品は最終仕入原価法、物流センター等の在庫品は移動平均法による原価法）

弁当給食事業 最終仕入原価法

（ただし、物流センター等の在庫品は移動平均法による原価法）

食材宅配事業・旅館、 最終仕入原価法

その他事業

貯蔵品 最終仕入原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。また、事業用定期借地契約による借地上の建物及び構築物については、残存価額を零とした借地契約期間を耐用年数とする定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 2～50年

- | | |
|------------------------|--|
| ② 無形固定資産
(リース資産を除く) | 定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。 |
| ③ リース資産 | 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とする定額法によっております。 |
| ④ 長期前払費用 | 定額法 |
|
(3) 引当金の計上基準 | |
| ① 貸倒引当金 | 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 |
| ② 賞与引当金 | 従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当事業年度対応額を計上しております。 |
| ③ 退職給付引当金 | 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度の末日における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
なお、当事業年度末における年金資産見込額が退職給付債務見込額を上回るため、117,807千円を投資その他の資産の前払年金費用に計上しております。
また、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。
なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。 |
| ④ 役員退職慰労引当金 | 役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。 |

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

② 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保付債務

担保に供している資産

定期預金	10,119千円
建物	148,787千円
土地	449,494千円
計	608,402千円

上記に対する債務

1年内返済予定の長期借入金	137,200千円
長期借入金	1,166,000千円
計	1,303,200千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 6,792,501千円

(3) 関係会社に対する金銭債権債務

短期金銭債権	120,145千円
長期金銭債権	1,000千円
短期金銭債務	25,365千円
長期金銭債務	122,000千円

3. 表示方法の変更に関する注記

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

売上高	3,678,071千円
仕入高	199,512千円
営業取引以外の取引高	29,614千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式の種類及び株式数

普通株式	989,121株
------	----------

6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

未払事業税	19,576千円
賞与引当金	62,020千円
賞与引当金対応分社会保険料	9,721千円
減価償却費	131,755千円
減損損失	351,714千円
役員退職慰労引当金	28,227千円
その他	26,309千円
小計	629,324千円
評価性引当額	△89,351千円
繰延税金資産合計	539,973千円

(繰延税金負債)

退職給付に係る資産	△35,872千円
その他有価証券評価差額金	△30,606千円
固定資産圧縮積立金	△27,534千円
小計	△94,013千円
評価性引当額	24,039千円
繰延税金負債合計	△69,974千円
繰延税金資産の純額	469,999千円

- (2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別内訳

法定実効税率	30.5%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.6%
住民税均等割	8.4%
評価性引当額の増減	△0.9%
その他	△0.7%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	39.9%

7. 関連当事者との取引に関する注記

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有者 (被所有)割合(%)	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	㈱サンキューオールジャパン	直接100%	役員の兼任 資金の借入	業務受託 手数料収入	14,581	—	—
				資金の借入	—	関係会社 長期借入金	100,000
				利息の支払	499	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 業務受託手数料収入については、業務の内容を勘案し、手数料を毎期決定しております。
2. 利息の支払については、市場金利を勘案して合理的に金利を決定しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額	640円78銭
1株当たりの当期純利益	42円46銭

9. 減損損失に関する注記

場所	用途	種類
スーパーマーケット事業 新潟県長岡市	店舗	建物及びリース契約物件他
弁当給食事業 茨城県つくば市	工場	建物及び機械装置他
千葉県稲毛区	工場	リース資産及びリース契約物件他
旅館、その他事業 新潟県長岡市	店舗	建物及び機械装置他
新潟市中央区	店舗	リース契約物件

当社は、原則として、各事業毎の支店及び店舗等を基本単位としてグルーピングを行っておりますが、賃貸用不動産及び遊休資産については物件単位によってグルーピングを行っております。当事業年度において、収益性が著しく低下した資産グループについて、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（255,704千円）として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物151,634千円、機械及び装置27,859千円、土地23,555千円、リース資産19,683千円及びその他32,972千円であります。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額又は使用価値により測定しております。正味売却価額については主に不動産鑑定評価基準に基づいた不動産鑑定士からの評価額を基準に評価し、使用価値については将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、回収可能価格をゼロとして算定しております。

10. 資産除去債務に関する注記

資産除去債務のうち、貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

店舗等における賃貸借契約終了後の原状回復に伴う費用であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から主に20～34年と見積もり、割引率は0.1～2.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減	
期首残高	603,378千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	55,845千円
時の経過による調整額	10,472千円
資産除去債務の履行による減少額	△18,137千円
<hr/>	<hr/>
期末残高	651,558千円

11. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結計算書類に係る会計監査人の会計監査報告

独立監査人の監査報告書

令和元年5月14日

株式会社オーシャンシステム
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 塚田 一 誠 ㊟
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 大黒 英 史 ㊟
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社オーシャンシステムの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オーシャンシステム及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

計算書類に係る会計監査人の会計監査報告

独立監査人の監査報告書

令和元年5月14日

株式会社オーシャンシステム
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 塚田 一 誠 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 大黒 英 史 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社オーシャンシステムの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第41期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第41期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門、その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。
また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社からの事業の報告を受けました。
 - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制並びにその他株式会社及びその子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書、並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。

また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

令和元年5月14日

株式会社オーシャンシステム 監査役会

常勤監査役 武石 肇 ㊟

社外監査役 捧 俊雄 ㊟

社外監査役 逸見和宏 ㊟

以上

株主総会参考書類

第1号議案 取締役9名選任の件

取締役全員（9名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、取締役9名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
1	樋口 勝人 (昭和50年4月22日生)	平成9年5月 日本料理 しまや入社 平成11年5月 当社入社 平成14年1月 当社ランチサービス事業部 ぐるめし本舗新潟店長 平成20年10月 当社ランチサービス事業部 新潟店長 平成22年6月 当社取締役社長室長 平成23年4月 当社取締役 平成24年4月 当社取締役営業本部副本部長 平成25年4月 当社代表取締役副社長 平成27年6月 当社代表取締役社長（現任）	40,000株
2	樋口 勤 (昭和25年6月25日生)	昭和44年4月 ひぐち食品入社 昭和52年11月 (株)ひぐち食品設立と共に取締役就任 昭和53年11月 当社設立と共に専務取締役就任 平成10年4月 当社代表取締役副社長 平成21年6月 当社代表取締役社長 平成27年6月 当社代表取締役会長 平成29年6月 当社取締役会長（現任） (重要な兼職の状況) (株)サンキューオールジャパン 代表取締役社長	723,000株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当 社株式の数
3	なか じま しょう じ 中 嶋 庄 司 (昭和32年3月25日生)	昭和56年9月 (株)島田入社 昭和57年9月 (株)ひぐち食品入社 平成10年2月 営業譲渡により(株)ランチサー ービス (現在のランチサー ビス事業部) へ移籍 平成10年4月 合併により当社へ移籍 当社取締役ランチサービ ス事業部長 平成22年6月 当社常務取締役営業本部長 兼ランチサービス事業部長 平成23年4月 当社常務取締役営業本部長 平成26年4月 当社常務取締役 平成27年6月 当社専務取締役宅配事業部 長 平成27年7月 当社専務取締役宅配事業部 長デリカフーズ事業部長 平成28年4月 当社専務取締役兼執行役員 宅配事業部長 (現任) (重要な兼職の状況) (株)フーディー 取締役	44,300株
4	みや じま だい ぞう 宮 嶋 大 造 (昭和30年8月2日生)	昭和53年4月 (株)やませ入社 平成8年9月 (株)セイフー移籍 平成11年11月 当社入社 平成21年8月 当社小売事業部長 平成22年6月 当社取締役小売事業部長兼 チャレンジャー担当部長 平成25年4月 当社取締役執行役員チャレ ンジャー事業部長 平成27年6月 当社常務取締役チャレンジ ャー事業部長 平成28年4月 当社常務取締役兼執行役員 フードサービス事業部長 平成30年4月 当社常務取締役 (現任)	15,400株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当 社株式の数
5	おのの 小野 純平 (昭和36年1月27日生)	平成12年11月 三共観光(株)入社 平成14年4月 当社入社 平成20年4月 当社小売事業部次長 平成22年6月 当社取締役小売事業部業務 スーパー担当部長 平成25年4月 当社取締役執行役員業務ス ーパー事業部長 平成31年4月 当社取締役執行役員業務ス ーパー事業部長兼企画開発 室長 (現任) (重要な兼職の状況) (株)カワサキ 代表取締役社長	1,200株
6	すぎたの 杉田 仁史 (昭和36年10月2日生)	平成12年7月 (株)サンキューオールジャパ ン入社 平成21年6月 当社取締役 平成25年4月 当社取締役執行役員営業本 部部門担当部長 平成26年4月 当社取締役執行役員F C開 発部門担当部長 当社取締役兼執行役員F C 開発事業部長 平成28年4月 当社取締役 (現任) (重要な兼職の状況) (株)サンキューオールジャパン 取締役	2,600株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
7	やま だ ひで き 山 田 秀 樹 (昭和39年1月1日生)	昭和63年4月 (株)北越銀行入行 平成15年3月 プルデンシャル生命(株)入社 平成19年12月 社会医療法人嵐陽会三之町 病院入職 平成28年5月 当社入社 当社管理部付部長 平成28年8月 当社内部監査室長 平成29年6月 当社常勤監査役 平成30年6月 当社取締役兼執行役員社長 室長(現任) (重要な兼職の状況) (株)サンキューオールジャパン 監査役 (株)カワサキ 取締役	200株
8	さい とう よし ひろ 齋 藤 吉 弘 (昭和42年7月22日生)	平成3年4月 (株)日立製作所入社 平成14年9月 三条市労務管理協会入所 平成16年9月 社会保険労務士登録 平成18年11月 特定社会保険労務士登録 平成26年6月 当社社外取締役(現任) (重要な兼職の状況) あおば社労士事務所 所長 (株)キッチンプランニング 監査役 (株)あおば中央人事労務 代表取締役 合同会社あおばインベストメント 代表社員	一株
9	ひ ぐち よう へい 樋 口 洋 平 (昭和17年9月13日生)	昭和38年6月 ひぐち食品創業 昭和52年11月 (株)ひぐち食品設立と共に代 表取締役社長就任 昭和53年11月 当社設立と共に代表取締役 社長就任 平成10年4月 当社代表取締役会長 平成21年6月 当社取締役相談役 平成27年6月 当社取締役退任 平成27年8月 当社との委嘱契約により相 談役に就任 平成29年6月 当社取締役相談役(現任)	761,000株

- (注) 1. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 候補者の齋藤吉弘氏は社外取締役候補者であります。
3. 社外取締役候補者に関する特記事項
- (1) 社外取締役候補者とした理由について
齋藤吉弘氏を社外取締役候補者とした理由は、同氏は、社会保険労務士として専門的な知識・経験等を有しており、社外取締役として適切な助言をいただけるものと判断したためであります。
- (2) 社外取締役としての就任年数
齋藤吉弘氏の当社での社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって5年となります。
- (3) 社外取締役との責任限定契約について
齋藤吉弘氏と当社との間で、会社法第427条第1項の規定により、損害賠償責任を法令に定める最低責任限度額に限定する契約を締結しており、同氏の再任が承認された場合には、当該契約を継続する予定であります。
4. 当社は齋藤吉弘氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。同氏が再任された場合は、当社は引き続き同氏を独立役員とする予定であります。

第2号議案 監査役1名選任の件

監査役逸見和宏氏は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、監査役1名の選任をお願いするものであります。

また、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
へん み かず ひろ 逸見和宏 (昭和33年11月16日生)	昭和58年3月 監査法人第一監査事務所（現EY 新日本有限責任監査法人）入所 昭和60年3月 公認会計士登録 平成4年8月 税理士登録 平成27年6月 当社社外監査役（現任） （重要な兼職の状況） 逸見和宏公認会計士事務所 代表 国立大学法人新潟大学 非常勤監事 税理士法人逸見会計 代表社員	400株

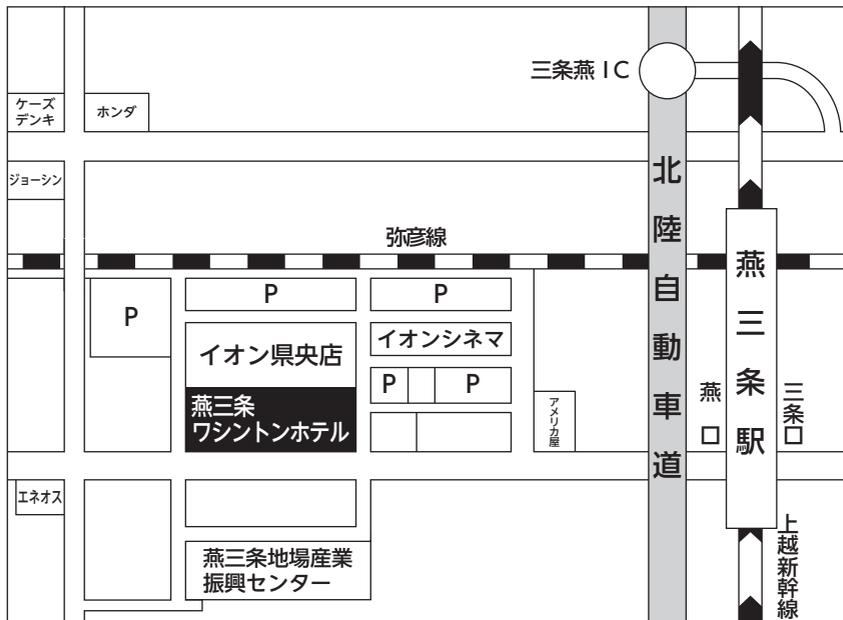
- (注) 1. 候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 候補者の逸見和宏氏は社外監査役候補者であります。
3. 社外監査役候補者に関する特記事項
- (1) 社外監査役候補者とした理由について
逸見和宏氏を社外監査役候補者とした理由は、同氏は、会社経営に関与した経験はありませんが、公認会計士として専門的な知識・経験等を有しており、専門家としての客観的立場から当社の経営に対する適切な監査を行っていただけるものと判断したためであります。
 - (2) 社外監査役としての就任年数
逸見和宏氏の当社での社外監査役としての在任期間は、本総会終結の時をもって4年となります。
 - (3) 社外監査役との責任限定契約について
逸見和宏氏と当社との間で、会社法第427条第1項の規定により、損害賠償責任を法令に定める最低責任限度額に限定する契約を締結しており、同氏の再任が承認された場合には、当該契約を継続する予定であります。
4. 当社は逸見和宏氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。同氏が再任された場合は、当社は引き続き同氏を独立役員とする予定であります。

以上

メ モ

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

株主総会会場ご案内図



- 会場 新潟県燕市井土巻三丁目65番地
燕三条ワシントンホテル（3階ホール）
- 電話 (0256) 66-1111
- 交通 北陸自動車道 三条燕インターより車で3分
上越新幹線 燕三条駅より徒歩で5分